

事務事業及び予算の執行実績

(令和6年度分「一部、令和7年度分を含む」)

静岡県立川根高等学校

目 次

事務事業の概要	1
事務執行の根拠法令調	1 6
学校施設の概要	1 7
在籍生徒調	1 9
入学志願者及び入学者数調	2 0
卒業生の動向調	2 1
生徒の状況	2 2
授業料収納状況調	2 3
県収入証紙により徴収した使用料及び手数料調	2 5
保管現金有高調	2 5
預金調	2 5
郵券等受払調	2 6
委託料等歳出予算執行状況節別集計表	2 7
委託料に関する調	2 9
負担金支出調	3 2
建築工事調	3 4
公有財産調	3 6
借地借家等調	3 7
事務機器等の債務負担行為又は長期継続契約に係る調	3 8
行政財産貸付・使用許可調	3 9
普通財産・借受財産等貸付調	4 1
職員公舎管理状況調	4 2
主要備品調	4 3
職員調	4 4
職員の年齢調	4 5
健康管理	4 6

事務事業の概要

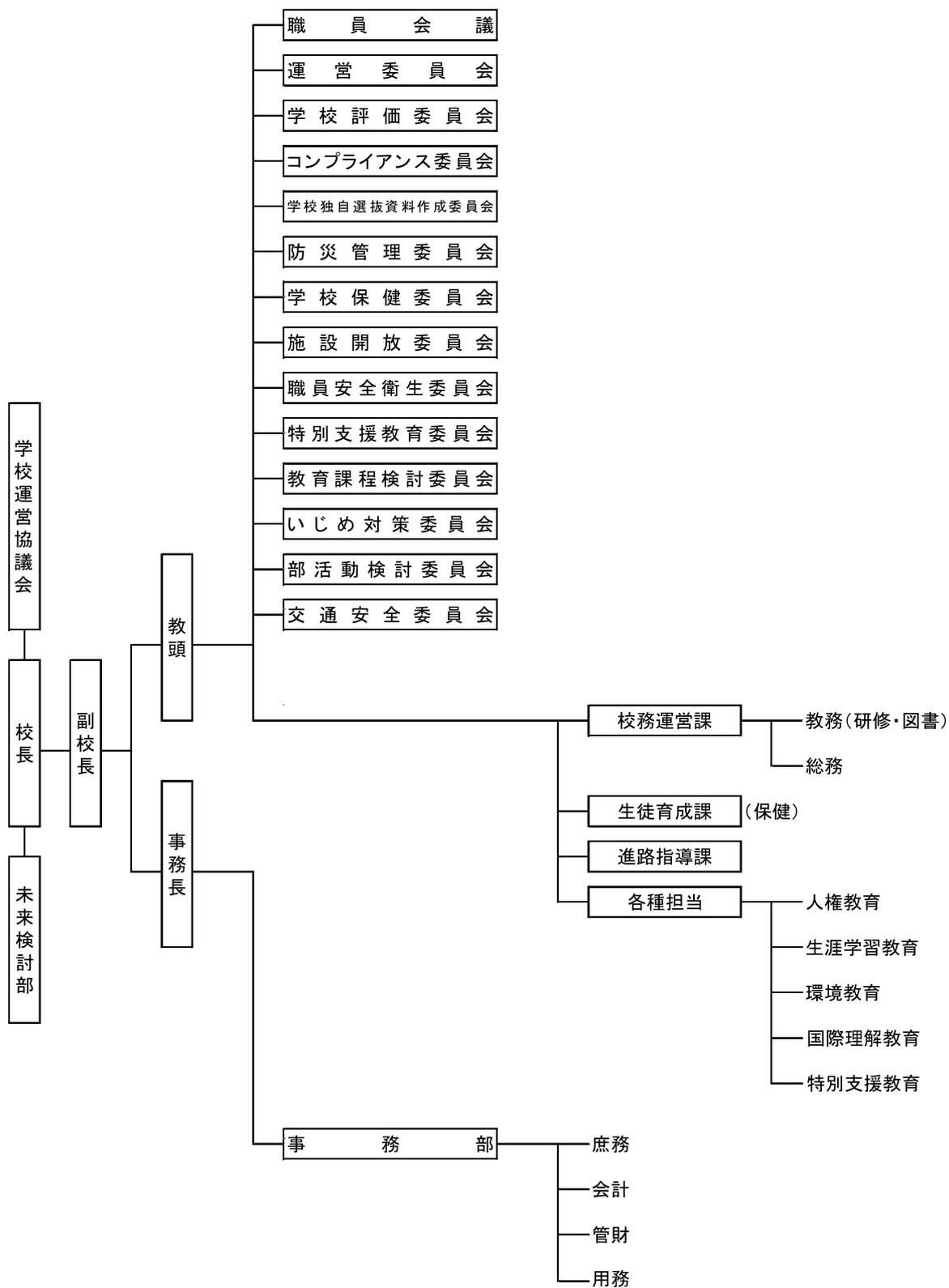
1 概況

(1) 学校の沿革

昭和38年3月18日	分校設置、静岡県教育委員会告示第5号。定員150人 (校名、静岡県立藤枝東高等学校川根分校)
昭和38年4月5日	第1回入学式挙行(入学生178人)。学校後援会及びPTA発足式挙行
昭和39年6月13日	第2グラウンド完成
昭和40年4月15日	新校舎(鉄筋3階建)及び弓道場完成
昭和41年3月31日	藤枝東高等学校から独立(新校名、静岡県立川根高等学校) 第1回卒業式挙行(卒業生176人)
昭和41年4月8日	独立記念祝賀式挙行
昭和43年1月27日	体育館兼講堂落成、同落成記念式挙行
昭和43年4月1日	入学者定員192人
昭和44年4月1日	入学者定員188人
昭和45年3月14日	校舎建築第1期工事完成
昭和46年1月31日	校舎建築第2期工事完成
昭和46年3月15日	武道場完成
昭和46年4月1日	入学者定員180人
昭和49年5月30日	管理棟完成(鉄筋3階建)
昭和50年9月28日	第1グラウンド整備事業完成
昭和50年10月4日	創立10周年記念式挙行、校歌制定
昭和52年9月8日	プール完成(25m、7コース、鋼板製)
昭和55年1月11日	夜間照明施設完成
昭和57年9月12日	創立20周年記念式挙行
昭和58年4月25日	分収林の設定、植林
昭和59年9月30日	校舎棟耐震補強工事竣工(教室棟一部)
平成4年3月16日	クラブ部室完成
平成4年4月1日	入学者定員170人
平成4年10月3日	創立30周年記念式挙行
平成5年4月1日	入学者定員166人
平成6年4月1日	入学者定員164人
平成6年10月31日	セミナーハウス(南麓館)完成
平成7年4月1日	入学者定員162人
平成8年4月1日	入学者定員120人
平成9年3月14日	弓道場完成
平成11年3月15日	屋外便所完成(体育館北側)
平成11年4月1日	中高一貫教育(連携型)研究協力校
平成12年3月15日	給水管全面改修工事完成
平成14年4月1日	川根地区連携型中高一貫教育開始

平成 15 年 4 月 1 日	連携型入試第 1 期生入学者 99 人 (全 101 人)
平成 16 年 4 月 1 日	連携型入試第 2 期生入学者 94 人 (全 96 人)
平成 17 年 2 月 4 日	体育館耐震補強建築工事完成
平成 17 年 4 月 1 日	連携型入試第 3 期生入学者 77 人 (全 83 人)
平成 18 年 4 月 1 日	連携型入試第 4 期生入学者 67 人 (全 68 人)
平成 19 年 4 月 1 日	入学者定員 80 人、特別進学クラス設置
平成 19 年 4 月 1 日	連携型入試第 5 期生入学者 70 人 (全 72 人)
平成 19 年 6 月 30 日	管理棟・教室棟耐震補強建築工事完成
平成 20 年 4 月 1 日	連携型入試第 6 期生入学者 64 人 (全 70 人)
平成 21 年 4 月 1 日	連携型入試第 7 期生入学者 70 人 (全 74 人)
平成 22 年 4 月 1 日	連携型入試第 8 期生入学者 62 人 (全 63 人)
平成 23 年 4 月 1 日	連携型入試第 9 期生入学者 77 人 (全 78 人)
平成 24 年 4 月 1 日	連携型入試第 10 期生入学者 51 人 (全 52 人)
平成 24 年 10 月 27 日	創立 50 周年記念式挙行
平成 25 年 4 月 1 日	連携型入試第 11 期生入学者 52 人 (全 52 人)
平成 26 年 4 月 1 日	連携型入試第 12 期生入学者 40 人 (全 42 人)
平成 27 年 4 月 1 日	連携型入試第 13 期生入学者 38 人 (全 48 人)
平成 28 年 4 月 1 日	連携型入試第 14 期生入学者 40 人 (全 64 人)
平成 29 年 4 月 1 日	連携型入試第 15 期生入学者 24 人 (全 44 人)
平成 30 年 4 月 1 日	連携型入試第 16 期生入学者 22 人 (全 41 人)
平成 31 年 4 月 1 日	連携型入試第 17 期生入学者 29 人 県外生徒特色選抜入学者 6 人 (全 61 人)
令和 2 年 4 月 1 日	連携型入試第 18 期生入学者 16 人 県外生徒特色選抜入学者 2 人 (全 41 人)
令和 3 年 4 月 1 日	連携型入試第 19 期生入学者 19 人 県外生徒特色選抜入学者 1 人 (全 43 人)
令和 4 年 4 月 1 日	連携型入試第 20 期生入学者 12 人 県外生徒特色選抜入学者 3 人 (全 32 人)
令和 5 年 4 月 1 日	連携型入試第 21 期生入学者 17 人 県外生徒特色選抜入学者 4 人 (全 32 人)
令和 6 年 4 月 1 日	連携型入試第 22 期生入学者 12 人 県外生徒特色選抜入学者 3 人 (全 26 人)
令和 7 年 4 月 1 日	連携型入試第 23 期生入学者 14 人 県外生徒特色選抜入学者 3 人 (全 26 人)

(2) 組織図
校務分掌表



2 目指す学校像

(1) 校訓

- 「自省」 常にみずからを敬しみ、心を磨く
- 「創造」 意欲をもってよき未来を築く
- 「果断」 公正な判断のもとに積極的に行動する

(2) 令和6年度

ア スクール・ミッション

連携中学校、県内全域、全国から生徒が集う学校として、地元自治体、企業等との連携による探究活動や少人数指導などの教育活動を通して、未来を切り拓く力（自律性・人間性・探究心）を備えた人材の育成を目指す。

イ 目指す学校像

(7) スクール・ポリシー（重点事項はゴシック体で表記）

グラデュエーション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー		アドミッション・ポリシー
<ul style="list-style-type: none"> ・自らを成長させるための生活習慣と学習習慣が確立している。 ・誰に対しても思いやりを持って適切な行動を取ることができる。 ・文章・会話などで表現されているものを多面的・多角的に理解し、適切に表現できる。 ・自ら設定した課題の解決法を構想し、自己実現に向けて行動に移すことができる。 ・自己の在り方生き方を考えながら物事を捉え、解決するために行動できる。 	【律する力】	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣を確立し、健康・安全な生活を送る。 ・基礎学力を身に付け、自らを成長させるための学習習慣を確立する。 ・自分の強み・弱みを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身の良さは何か分かり、それを伸ばそうとする意欲がある生徒。 ・自分自身の課題は何か分かり、それを改善しようとする意欲がある生徒。 ・仲間とともに協力して粘り強く学ぼうとする意欲がある生徒。 ・探究的な活動を通じて、自分の身の回りや社会について考察しようとする意欲がある生徒。
	【繋がる力】	<ul style="list-style-type: none"> ・異なる年代、地域の方々と関わろうとする。 ・他者に対して、思いやりを持って適切な行動をとろうとする。 ・集団において、目標を共有し、適切に意見を交換しながら活動しようとする。 	
	【理解する力】	<ul style="list-style-type: none"> ・文章、会話などで表現されているものを理解する。 ・様々な視点、立場で物事を考えようとする。 ・他者の意見に耳を傾けながら、自分の考えを、自分の言葉で伝えようとする。 	
	【挑む力】	<ul style="list-style-type: none"> ・困難から逃げ出さず、解決しようとする。 ・現状に満足せず、課題を克服し自分を高めようとする。 ・自己実現に向け、自ら考え、判断し、行動しようとする。 	
	【探究する力】	<ul style="list-style-type: none"> ・課題解決に向け、必要な情報を収集し、解決策を考えようとする。 ・身の回りの課題を見つけ出そうとする。 ・課題や卒業後の進路等を考え、取り組むべき目標や計画を立て、実行しようとする。 	

(4) スクール・ポリシー具現化の柱（R6 重点事項はゴシック体で表記）

【律する力】の育成

生活習慣と学習習慣の確立のため、活動の可視化を行い、成長の機会となるよう学校生活の様々な場面でフィードバックを行う。

【繋がる力】の育成

思いやりの心を育むため、学校内外において様々な人間関係を形成し、対話や協働のし易い機会を作る。

【理解する力】の育成

物事を多面的・多角的に理解するため、異なる視点・立場の多様な捉え方を学び、自己表現する機会を作る。

【挑む力】の育成

自己実現に向けて行動するため、目標の設定段階から支援を行い、適切な対応で促し、難しい課

題にも挑戦しやすい環境を作る。

【探究する力】の育成

物事の現状や課題に対し、自己の在り方生き方を考えながら向き合うため、生徒自ら問いを作る機会を増やし、個に即した対応を行う。

【安心安全な教育環境】の整備

安心安全な教育環境、働きやすい職場の確立及び教職員の働き方改革への取組を推進する。

(3) 令和7年度

1 スクール・ミッション

連携中学校、県内全域、全国から生徒が集う学校として、地元自治体、企業等との連携による探究活動や少人数指導などの教育活動を通して、未来を切り拓く力（自律性・人間性・探究心）を備えた人材の育成を目指す。

2 目指す学校像

(1) スクール・ポリシー（重点事項はゴシック体で表記）

グラデュエーション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー		アドミッション・ポリシー
<p>・自らを成長させるための生活習慣と学習習慣が確立している。</p> <p>・誰に対しても思いやりを持って適切な行動を取ることができる。</p> <p>・文章・会話などで表現されているものを多面的・多角的に理解し、適切に表現できる。</p> <p>・自ら設定した課題の解決法を構想し、自己実現に向けて行動に移すことができる。</p> <p>・自己の在り方生き方を考えながら物事を捉え、解決するために行動できる。</p>	【律する力】	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣を確立し、健康・安全な生活を送る。 ・基礎学力を身に付け、自らを成長させるための学習習慣を確立する。 ・自分の強み・弱みを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身の良さは何か分かり、それを伸ばそうとする意欲がある生徒。 ・自分自身の課題は何か分かり、それを改善しようとする意欲がある生徒。 ・仲間とともに協力して粘り強く学ぼうとする意欲がある生徒。 ・探究的な活動を通じて、自分の身の回りや社会について考察しようとする意欲がある生徒。
	【繋がる力】	<ul style="list-style-type: none"> ・異なる年代、地域の方々に関わろうとする。 ・他者に対して、思いやりを持って適切な行動をとろうとする。 ・集団において、目標を共有し、適切に意見を交換しながら活動しようとする。 	
	【理解する力】	<ul style="list-style-type: none"> ・文章、会話などで表現されているものを理解する。 ・様々な視点、立場で物事を考えようとする。 ・他者の意見に耳を傾けながら、自分の考えを、自分の言葉で伝えようとする。 	
	【挑む力】	<ul style="list-style-type: none"> ・困難から逃げ出さず、解決しようとする。 ・現状に満足せず、課題を克服し自分を高めようとする。 ・自己実現に向け、自ら考え、判断し、行動しようとする。 	
	【探究する力】	<ul style="list-style-type: none"> ・課題解決に向け、必要な情報を収集し、解決策を考えようとする。 ・身の回りの課題を見つけ出そうとする。 ・課題や卒業後の進路等を考え、取り組むべき目標や計画を立て、実行しようとする。 	

(2) スクール・ポリシー具現化の柱（R7 重点事項はゴシック体で表記）

ア【律する力】の育成

生活習慣と学習習慣の確立のため、活動の可視化を行い、成長の機会となるよう学校生活の様々な場面でフィードバックを行う。

イ【繋がる力】の育成

思いやりの心を育むため、学校内外において様々な人間関係を形成し、対話や協働のし易い機会を作る。

ウ【理解する力】の育成

物事を多面的・多角的に理解するため、異なる視点・立場の多様な捉え方を学び、自己表現する機会を作る。

エ【挑む力】の育成

自己実現に向けて行動するため、目標の設定段階から支援を行い、適切な対応で促し、難しい課題にも挑戦しやすい環境を作る。

オ【探究する力】の育成

物事の現状や課題に対し、自己の在り方生き方を考えながら向き合うため、生徒自ら問いを作る機会を増やし、個に即した対応を行う。

カ【安心安全な教育環境】の整備

安心安全な教育環境、働きやすい職場の確立及び教職員の働き方改革への取組を推進する。

3 監査対象期間の年度別学校経営の取組等

(1) 令和6年度の取組目標への評価及び成果と課題

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題	担当
ア	基本的な生活習慣を身に付け、学校生活に積極的に取り組むとともに、自らの健康管理に留意できる生徒を育成する。	生徒アンケートの「さわやかな挨拶を心掛けている」で80%以上。	アンケート結果 A（あてはまる） B（ややあてはまる） A=34.5% A+B=92.7%	B	生活委員による登校時の挨拶運動では、多くの生徒がしっかりと挨拶できていると感じています。今後は、対人関係を向上させるために、授業の始まりや終わり、入退室時における言葉遣いや礼儀作法（表現力）についても考えていきたいです。	生徒育成課
		歯科検診の再受診率60%以上。	R7.1月時点で61.1%を達成。	B	保健委員会では、受診を呼びかける案内を作成したり、歯に関する健康習慣を実施したりすることで、早期受診の重要性を伝えることができました。今後は、生徒だけでなく保護者へのアプローチ方法についても考えていきたいです。	生徒育成課（保健）
イ	多様な考え・生き方を尊重し、いじめ防止を含む、他者と適切な関係を築くことができる生徒を育成する。	授業アンケート項目2-1「多様な生き方や考え方に触れられる授業だったか」、2-2「情報発信と受信を組み合わせる授業だったか」、3-3「対話や協働のしやすい授業だったか」が全て80%以上。	アンケート結果 A：あてはまる B：まああてはまる 合算の数値 2-1 95.7% 2-2 96.2% 3-3 96.2%	A	目標は達成できました。一方で、自由回答では「もっとグループで話し合いたい」という意見も見られました。そのため、授業改善を継続的に進めていく必要性を感じています。	校務運営課（教務）
		全校集会でいじめ等の防止につながる人権教育の実施。	第2学期終業式において生徒育成課長より「人権」に関する講話を実施した。	B	対人関係の希薄さが原因で問題行動につながることも多く見られました。今後は分掌や教科と連携しながら「人権」についての理解を深めるとともに、他者を尊重する心の育成についても取り組んでいきたいです。	生徒育成課

		生徒アンケートの「自分に良いところがある」で80%以上。	アンケート結果 A (あてはまる) B (ややあてはまる) A=32.7% A+B=80%	B	質問の捉え方によって回答率は変化すると思われませんが、概ね生徒たちは自分を見つめることができていると感じます。今後は、他者とのコミュニケーションを深める中で「自分を知る」ことについても考えさせていきたいです。	生徒育成課
ウ	目標を自ら定め、その実現のために学習習慣の確立と主体的・対話的で深い学びの定着に取り組む生徒を育成する。	テスト勉強1日150分以上。 授業アンケート項目1「この授業がわかる」が80%以上。	テスト勉強時間 1年 148.49 2年 168.36 3年 157.51 全体 148.22 (2学期末まで平均) この授業がわかる・とてもわかる・まあまあわかる=94.1%	A	数値目標は達成できました。しかし、テスト2週間前と1週間前の学習時間に大きな差が見られることから、日常的な学習習慣の確立が課題となっています。	校務運営課(教務)
		基礎力診断テストGTZ(学力到達度ゾーン)のD2以上の生徒60%以上。	1年 75.0% 2年 79.2% 3年 62.5% (全体 75.0%)	A	目標は達成されましたが、義務教育段階の学習内容が十分に定着していない生徒や、学習意欲が十分とは言えない生徒が一定数存在します。そのため、基礎的な学習習慣の定着に向けた支援が必要です。	進路指導課
		進研模試の偏差値(7月/11月)が上がった生徒30%以上。	2年 87.5% 3年 33.3% (全体 72.7%)	A	模試の難易度が上がるにつれて伸び悩む傾向が見られます。得意教科だけでなく不得意教科にも向き合う習慣を身に付けることや、基礎学力の定着と問題演習の機会を充実させる必要があります。	進路指導課

		各教員がAL (アクティブ ラーニング) 型 授業をできる 限り実施する。	全員が行ってい る	A	引き続き実施できるよ うに、課としても支援 を行い、内容の充実を 図りたいです。	校務 運営課 (研修)
エ	授業、生徒会活動、部 活動に積極的に参加 し、課題解決に向け、 粘り強く取り組む生 徒を育成する。	生徒アンケートでの「自らの 課題が分かっ ている」回答が 80%以上。	アンケート結果 A (あてはまる) B (ややあてはまる) 合算の数値 1年 90.0% 2年 89.7% 3年 83.3% 全体 89.1%	A	数値目標は達成しまし た。しかし、学年進行に より数値が減少してい ることが課題です。	校務 運営課 (教務)
		生徒アンケートの「部活動、 行事、生徒会活 動に積極的に 参加した」で 80%以上。	アンケート結果 A (あてはまる) B (ややあてはまる) A=52.7% A+B=85.5%	A	担当教員と連携しなが ら活動できていると感 じています。今後、本務 教員の減少に伴い、負 担軽減の観点から内容 の精選等が必要である と感じています。	生徒 育成課
オ	連携型中高一貫教育、 探究学習等を充実さ せ、生徒の教育活動が 推進される環境を整 える。	連携中学生・保 護者への広報 機会4回以上。	7/30 一日体験入 学、11/16 オープ ンスクール、6月 中学校での学校 説明会を実施 計4回	A	昨年度と同様の広報機 会や活動がありまし たが、今後はより広報効 果を高めるために、内 容や方法の工夫・改善 を図っていきたくと思 っています。	管理職
		生徒アンケート (自己評価) で「探究する 力」2.60以上。 (令和5年度 2.57)	アンケート回答 平均2.51	B	昨年度から数値は低下 しました。職員が減少 し、変更がある中で、学 校全体として探究する 力の育成について工夫 していく必要があります。 各科目の授業や総合 的な探究の時間にお いて、学びの動機付け を意識して指導する 必要があると感じてい ます。	進路 指導課
		生徒アンケート (川根留 学生) の「川根の ことを自分な りに説明でき る」で肯定的回 答70%以上。	「あてはまる」及 び「ややあては まる」という回答が 38人中22人 (57%)	B	連携中学出身者だけ でなく、多くの地域住 民と関わることで、川 根地域について知る機 会を増やしていきたい と考えています。	管理職 未来検討
カ	困難を抱える生徒へ の支援や防災に積極 的に取り組むととも に地域家庭と連携し 安心安全な教育環境 を整え、職員にも働 きやすい学校作りを 行う。	生徒アンケートの「自らを成 長させるため の生活・学習習 慣が確立し、誰 に対しても思 いやりを持って 適切に行動す る」で60%以 上。	アンケート結果 1年 66.7% 2年 83.3% 3年 87.5% 全体 80.0%	A	安心・安全な学校づく りに努めてきたこと で、落ち着いた学校生 活を送ることができ たと感じています。今 後も各学年において、 自他を認め合いなが ら生活ができる学校 環境づくりに努めて いきます。	管理職 生徒 育成課

	地域防災訓練 又は代替えの 活動に最低1 回は参加する。 生徒に対して の防災アンケ ートから、防災 についての意 識が高まった 80%以上。	参加率 47/81(58.0%) 参考R5 87.6% アンケート 80% 参考R5 84.0%	B	目標は達成できません でした(9月1日 県防災訓練が台風により 中止となったため)。 校内の防災訓練の見直 しを行い、より考える 形へと変更しました。 これを継続し、主体的 な訓練を続けていき たいと思います。	校務 運営課 (総務)
	施設・設備に関 する職員安全 衛生委員会の 提言の実施率 90%以上。 施設・設備に起 因した事故の 発生数0件。	施設・設備に関 する職員安全衛生委 員会の提言5件 実施率100% 施設・設備に起因 した事故0件	A	小規模な施設・設備の 不具合や物品の購入希 望については、その都 度迅速に対応してきま したが、学校施設全体 の老朽化が激しく、費 用が高額となる修繕工 事)については対応で きていないものがあり 、今後も対応に苦慮 することが予想されま す。生徒の安全を第一 に考え、対応に努めて いきます。	事務
	保護者のPT A行事に参加 した回数が1回 以上。保護者ア ンケートで学 校ホームページ やSNSを見て いるが70%。	延べ人数66名 81.4% 学校HP 58% Facebook 閲覧数1.2万回 フォロワー158人 Instagram 閲覧数11.4万回 フォロワー 1,051人	B	PTA行事の減少や、 居住地が遠隔地である 保護者が多く、参加が 難しい状況です。家庭 との連携を目指し、学 校の状況を知ってもら うために、SNSをさら に活用していきたい と考えています。	校務 運営課 (総務)
	セキュリ ティセ ット時 刻短縮 一昨年度 比10分	時刻短縮 前年度比56分増 (12月末現在)	D	セ ット時 刻につ いては 、昨年 度と比 較して 年間平 均56分 増加し ており ます。職 員の多 忙感も あるた め、更 に職員 への意 識啓発 に努め ていき ます。	副校長

(2) 令和7年度の取組目標・達成方法・成果目標

柱	取組目標	達成方法(取組手段)	成果目標	担当
ア	基本的な生活習慣を身に付け、学校生活に積極的に取り組むとともに、自らの健康管理に留意できる生徒を育成する。	基本的な生活習慣、あいさつ、規範意識 教員から率先してあいさつをし、朝のあいさつ運動や啓発活動を充実させる。 共通指導項目を教員間で共有し、きめ細かく一貫した指導を行っていく。	「さわやかな挨拶を心掛けている」で80%以上。	生徒育成課
		健康管理 定期健康診断後、再受診が必要と診断された者に対して受診の計画を立てる。夏の三者面談では、保護者にも検査結果の通知と、再受診の依頼をする。	歯科検診受診率60%以上。	生徒育成課(保健)
イ	多様な考えや、生き方を尊重し、他者と適切な関係を築くことができる生徒を育成する。	授業を通じた共感的人間関係を育む取組 他者との関わりを自ら積極的に生み出し、主体的に活動に参加するために、対話を中心としたAL型授業を展開する。	授業アンケート項目2-1、2-2、3-3が全て80%以上。	校務運営課(教務)

	る。	多様な生き方尊重、思いやり、いじめ防止 全校集会や学級活動等を通していじめ防止教育を行う。 個々の発言や行動が認められる集団づくりや、SC等を活用してコミュニケーション講座を実施する。	全校集会・科目等における「人権教育」の実施。	生徒育成課
		他者との関わり、自己肯定感 自己肯定感を得られるよう、学級活動や学校行事などの特別活動で、他者と関わる機会を増やし、役割を全うする機会を多く用意する。	「自分に良いところがある」で80%以上。	生徒育成課
ウ	目標を自ら定め、その実現のために学習習慣の確立と主体的・対話的で深い学びの定着に取り組む生徒を育成する。	生徒の学習習慣、授業への取組 家庭学習の習慣を身に付けさせ、基礎学力の向上を図る。 生徒が主体的に学ぶ授業を展開する。	生徒アンケート平日の学習時間平均60分以上の生徒80%。 テスト2週間前勉強時間60分以上の生徒80%。 授業アンケート項目1が80%以上。	校務運営課(教務)
		基礎学力の定着 進学試験や就職試験に対応できる基礎学力の定着を図るため、学習への目的意識を持たせて既習内容の振り返りや学び合いを推進する。	基礎力診断テストGTZ(学力到達度ゾーン)の2以上の生徒60%以上。	進路指導課
		進学希望者の学習指導 志望先の目標設定を、面談を通して丁寧に支援し、補習・模試を事前・事後指導を含めて企画・運営する。	進研模試の偏差値(7月/11月)が上がった生徒30%以上。	進路指導課
		主体的・対話的で深い学びの実現のための授業改善 職員研修の実施および授業研究週間を設け、生徒の主体的・対話的で深い学びを促す授業の研究・改善を推進する。	授業改善アンケート項目2が80%以上。	校務運営課(研修)
エ	授業、生徒会活動、部活動に積極的に参加し、課題解決に向け、粘り強く取り組む生徒を育成する。	授業 観点別評価のフィードバックによって、生徒が自らの課題を理解し、その改善を図れるようにする。	生徒アンケートの「それぞれの教科の自分の課題が分かっている(成績通知などの観点別評価などを見て、自身の課題点がわかるか)」で80%以上。	校務運営課(教務)
		生徒会活動・部活動等 生徒が主体的に活動できるように、生徒の考えが尊重され、積極的に運営に参画する環境を整える。	「学校行事・生徒会活動・部活動に積極的に参加した」で90%以上。	生徒育成課
オ	連携型中高一貫教育、探究学習等を充実させ、生徒の教育活動が推進される環境を整える。	連携型中高一貫 各委員会の活動を全職員で共有し、一貫教育の目標やねらいの理解浸透を図るとともに、生徒、保護者に連携型中高一貫教育の趣旨や川根高校の魅力を発信する。	中学校への説明会等を4回以上開催し、充実した広報活動を展開する。	管理職
		探究活動 自己の興味・関心に基づいた問いをベースにして3年間の体系的な探究カリキュラムを遂行し、年度末に連携中学校との合同による成果報告会を実施する。	生徒アンケート(自己評価)で「探究する力」2.70以上。(令和6年度2.62)	未来検討
		川根留学生 川根留学生在が安心して安定した生活を送ることができるよう、探究学習等を通して、安心できる場所を学校内外に増やす。	生徒アンケート(川根留学生)の「川根のことを自分なりに説明できる」で肯定的回答70%以上。	管理職 未来検討
カ	困難を抱える生徒への支援や防災に積極的に取り組むとともに地域家庭と連携し安心安全な教育環境を整え、職員にも働きやすい学校作りを行う。	生徒支援 学習上又は生活上の困難を有する生徒の自立と社会参加を目指し、生徒支援関係機関と連携して系統性のある指導や支援を行う。	生徒アンケートの「自らを成長させるための生活・学習習慣が確立し、誰に対しても思いやりを持って適切に行動する」75%以上。	管理職 生徒育成課
		防災 地域防災への積極的な参加を通して、地域の方と関わるとともに、防災意識の高揚を図り、身に付けた防災知識を活用する。	防災アンケートから、防災についての意識が高まった80%以上。	校務運営課(総務)

	<p>施設設備 職員安全衛生委員会をはじめとする職員との連携強化により、情報収集に努め、状況の改善を速やかに行う。</p>	<p>施設・設備に関する職員安全衛生委員会の提言の実施率90%以上。 施設・設備に起因した事故の発生数0件。</p>	事務
	<p>P T A、広報 川根高校の現状に合った形のP T A活動を検討する。また、学校行事と関連させ、さまざまな形で保護者と学校が関わる機会を設ける。広報活動等を通して、本校を理解し、活動に興味を持ってもらう。</p>	<p>保護者の行事に参加した回数が1回以上。保護者アンケートで学校HPやSNSを見ているが70%。</p>	校務運営課 (総務)
	<p>働きやすい職場環境 安全と健康に留意しつつ、業務の効率化を図り、時間短縮を図るとともに、年休取得日数の増加を目指し、ワークライフバランスの向上を推進する。</p>	<p>機械警備セット時間の短縮、前年度比マイナス10分。 年休取得日数の増加。</p>	副校長

4 監査対象期間における特色ある取組

年度	取組概要	成果及び課題
令和6年度	<p>地域の中学生から選んでもらえるように、一層の魅力化を推進するとともに、カリキュラムや学科改善等について研究に取り組む。あわせて、川根留学を広く周知するような広報活動等の事業に取り組む。</p>	<p>川根高校や川根地域の魅力について、あらためて認識を深める機会を作り、地域の魅力を取り込んだカリキュラムを編成する。それらを効果的に地域、県内外の中学生に広報、周知していくことで、入学生徒数の増加につなげる。</p>
令和7年度	<p>県事業「行きたい学校づくり」推進事業の2年目として、昨年度の取組みの成果を生徒募集、広報活動に効果的に反映し、学校紹介動画、学校案内、ポスター、チラシ等の作成を実施した。魅力ある1学級の高校として、地域資源を積極的に取り入れた教育課程の作成に引き続き取り組む。</p>	<p>探究活動のより一層の充実を図るため、校内に「探究ルーム」を設け、「探究サポーター」として地域の方々に探究活動に係ってもらっている。教員数減への対応も進めながら、並行して学校の魅力化を推進していくことが大きな課題である。</p>

5 教職員について

(1) 異動状況

(単位：人)

補職名 区分	校長	副校長	教頭	教諭	養護教諭	実習助手	事務長	主査	主事	本務職員計	教諭(臨)	養護教諭(臨)	非常勤講師	外国語指導講師	非常勤労務職員	非常勤嘱託員	スクールカウンセラー	臨時職員計	合計	
転出者	1	0	1	2	1	0	0	1	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
退職者	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	2	1	0	1	0	4	5	
転入者	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
新任者	1	0	1	1	0	0	0	0	0	3	3	1	2	1	0	1	0	8	11	
昇任者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
差引増減	0	0	0	△2	△1	0	0	0	0	△3	3	1	0	0	0	0	0	4	1	

(2) 現員数 (令和7年5月31日現在)

(単位：人)

補職名 区分	校長	副校長	教頭	教諭	養護教諭	実習助手	事務長	主査	主事	本務職員計	教諭(臨)	養護教諭(臨)	非常勤講師	外国語指導講師	非常勤労務職員	非常勤嘱託員	スクールカウンセラー	臨時職員計	合計
計	1	1	1	13	0	2	1	1	1	21	3	1	6	1	2	1	2	16	37

(3) 健康管理について

教職員には定期健康診断、生活習慣病検診、人間ドック等の積極的な受診を促し、疾病等の早期発見に努め、疾病が見られた場合は早期治療を勧めている。また、健康の保持・増進、メンタルヘルスの推進にも心がけている。

なお、以下のように職員安全衛生委員会等をとおして職場環境等の改善も図った。

回数	開催月日	協議事項
第1回	令和6年4月5日	今年度の方針、活動内容について確認
第2回	令和6年4月24日	コンプライアンス研修の内容について協議
第3回	令和6年6月20日	図書室の網戸設置について協議
第4回	令和6年7月19日	廊下の網戸の設置状況確認、安全点検の実施について検討
第5回	令和6年8月28日	学校安全点検の実施方法、時期等について確認
第6回	令和6年9月25日	職員更衣室の点検、校舎内の点検担当者、日程の確認
第7回	令和6年10月29日	暖房器具及び加湿器の管理、使用方法について確認
第8回	令和6年11月21日	安全点検の集計とまとめについて暖房器具の管理方法周知
第9回	令和6年12月18日	職員室の施錠徹底確認、加湿器等の消し忘れ注意確認
第10回	令和7年1月31日	校舎安全管理について廊下の滑りやすさ要改善
第11回	令和7年2月13日	年間の振り返り

(4) 教職員の研修について

ア 令和6年度

(ア) 川根地区連携型中高一貫教育

教職員全員が中高一貫教育についての理解を深める。

研修内容	成果、課題
【中高合同研修会】集合開催 (1) 連携型中高一貫教育の概要 (2) 委員会部会	連携中高校職員が、一堂に会し全体会にて、中高一貫教育の概要を確認した。その後、3つの委員会で部会を行い、年間計画や活動方針を協議した。今後の活動について共通認識の話し合いができた。

(イ) 校内研修

多様な生徒、特色ある地域の強みをいかすために校内外でつながる力、探究する力を育成する。

研修内容	成果、課題
(1) 特別支援教育に関する理解とその方法について (2) 探究学習の理解とその指導方法について (3) 魅力ある一学級校の実現に向けて教育課程の検討	多様な生徒をいかすために特別支援教育についての知識理解、効果的な指導方法について理解を深めた。しかし、本校が抱える多様な生徒に対する個別の支援方法について、更なる理解が必要である。地域の強みをいかし、つながるために、探究学習、魅力ある一学級校についての検討を行った。特に、魅力ある一学級校の実現のためのカリキュラムについては喫緊の課題である。

(ウ) 校長講話等

川根高校の魅力化について考えさせ、「教職員の教育公務員としての意識」を向上させる。

研修内容	成果、課題
(1) 学校経営計画の見直し (2) 特色ある教育活動の推進 (3) 人事評価制度 (4) 情報提供（予算、町教委事業、県事業、高大接続改革、県外留学先進校の取組など） (5) 県外募集 (6) 授業観察と振り返り (7) 不祥事根絶 (8) 川根高校を取り巻く変化、課題と支援 (9) 1年（学校の評価）を振り返って	県外募集や特色ある教育活動の推進など、本校の魅力化事業を年間をとおして行ったことにより、教職員としての意識を高めることができた。 国、県、町、先進校等の情報提供を随時受けることで、日常の業務の方向性を確認することができ、今後の本校の改善について考える機会を得ることができた。また、不祥事根絶や予算についての研修をとおして教育公務員としての意識を啓発できた。

イ 令和7年度

(ア) 川根地区連携型中高一貫教育

昨年度から、一部の連携中学校の義務教育学校への移行や、川根高校の入学定員の変更などの

状況の変化が見られたことを受け、連携型中高一貫教育の在り方や、生徒交流のより効果的な展開等について、継続して協議を行っている。川根本町がすすめる「0歳から18歳までのシームレスな教育」との係わりも含めて、川根地域全体で子どもを育てる機運の高まりがあり、中高一貫教育にも好影響をもたらしている。

(イ) 校内研修

令和7年度より本校が一学級校になる（完成年度は令和9年度）。現在令和9年度に学科改変を行う予定である。「魅力ある一学級校」実現に向けて、多様な学習ニーズ・進路希望等に対応した学びへのカリキュラム検討・変革を行い地域に開かれた学校、地域に選ばれる学校の実現に向けて研究を行う。

(ウ) 校長講話等

令和6年度に続き、教職員一人一人が教育公務員としての倫理観に基づき、自覚を持って地域や県民の信頼にこたえる教育活動が実践できるよう、さまざまな取組により教職員の意識の向上を図りながら、本校の活動を充実させていくとともに川根高校の魅力化を一層推進していく。同時に、国や県、他県等からの情報を提供することにより、教育の現況についての知見の深化、意識の高揚を求め、教育に携わる者としての資質や業務の推進力の向上に寄与する内容とする。

6 防災対策について

地震をはじめとして各種の自然災害が発生した場合、帰宅できない生徒及び教職員が出てくる可能性が非常に高い本校の実情を踏まえ、また、川根留学生の増加による学校の体制変容に即して、「防災計画書」及び「台風等の自然災害時の対応について」等を整備し、災害時の対策準備に取り組む。

(1) 令和6年度の実績

指導目標	取組内容及び成果	課題
生徒の防災能力向上を目指し、様々な災害についての知識を高め、校内での実践的な各種の訓練を継続的に実施する。	地震や水害など現代の様々な被災状況を参考に、本校及び地域に適した防災教育を進め、生徒が自らの生命を自ら守る方法を避難訓練やホームルーム活動などを機会として指導し、防災教育を実施する。	避難訓練では、あらかじめ日程等を示したうえで実践したため、突発的な災害に対応できるかどうかが不確定であった。
災害時の地域との連携の具体と避難所としての役割の確認	川根本町、徳山地区、川根高校の三者の会議を継続的に実施できるような体制づくりと避難所としての運営の具体を確立し、職員が把握するとともに、生徒の地域防災参加の意識を高める。	避難所運営についての具体的なマニュアルがないため、漠然とした理解しかできていない。

(2) 令和7年度の計画等

指導目標	取組内容及び成果	課 題
突発的な災害に対応できるような防災能力向上を目指し、様々な災害についての知識を高め、校内での実践的な訓練を実施する。	より実効性のある避難訓練を行う事により、避難時の意識を高め、即時的な対応力を高めることをめざす防災訓練を実施する。	/
災害時の地域との連携の確認と避難所運営の確立	川根本町、地区、川根高校の三者の避難所会議を実施し、避難所としての運営の具体を確立する。	

7 学校開放について

学校の施設設備を有効に活用し、地域に開かれた学校となるため、学校行事等に支障がない範囲で積極的に開放している。

地域住民のバレーボール等の練習のため体育館等の施設利用が、年間を通して非常に多く、スポーツの普及、振興及び地域住民の健康増進に寄与している。

施設の開放状況（令和7年5月31日現在）

年度	施設名	利用 団体数	利用 回数	利用人数 (延人数)	実施種目	利用者負担金 (電気料)
6年度	武道場	1	43	227	卓球	6,586
	体育館	3	110	2,150	バレーボール、サッカー	27,421
7年度	武道場	1	6	27	卓球	820
	体育館	3	22	420	バレーボール、サッカー	2,675

事務執行の根拠法令調

項 目	根 拠 法 令
1 学校教育に関する こと	教育基本法（第1条、第2条） 学校教育法（第1条、第2条、第3条、第50条、第51条、第52条、 第60条） 学校教育法施行規則 学校保健安全法（第5条） 静岡県立学校設置条例 静岡県立高等学校学則 高等学校学習指導要領 理科教育振興法（第11条） 理科教育振興法施行令
2 学校の管理・運 営に関すること	学校教育法（第137条） 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（第33条） 静岡県立学校管理規則 教育公務員特例法（第21条、第22条） 学校保健安全法（第15条、第27条） 静岡県立学校職員安全衛生管理規程 社会教育法（第43条、第45条、第47条） 静岡県立学校の施設等の開放に関する要綱 学校図書館法（第3条、第4条） 静岡県教育委員会処務規程 静岡県手数料徴収条例 静岡県立学校の授業料等の徴収に関する条例 静岡県立学校授業料等徴収規則 高等学校等就学支援金の支給に関する法律 高等学校等就学支援金の支給に関する法律施行令 高等学校等就学支援金の支給に関する法律施行規則 静岡県高等学校等教育資金及び静岡県高等学校等奨学金貸与規則 高等学校遠距離通学費補助金交付要綱 静岡県情報公開条例施行規則 いじめ防止対策推進法 独立行政法人日本スポーツ振興センター法（第16条、第17条）

学校施設の概要

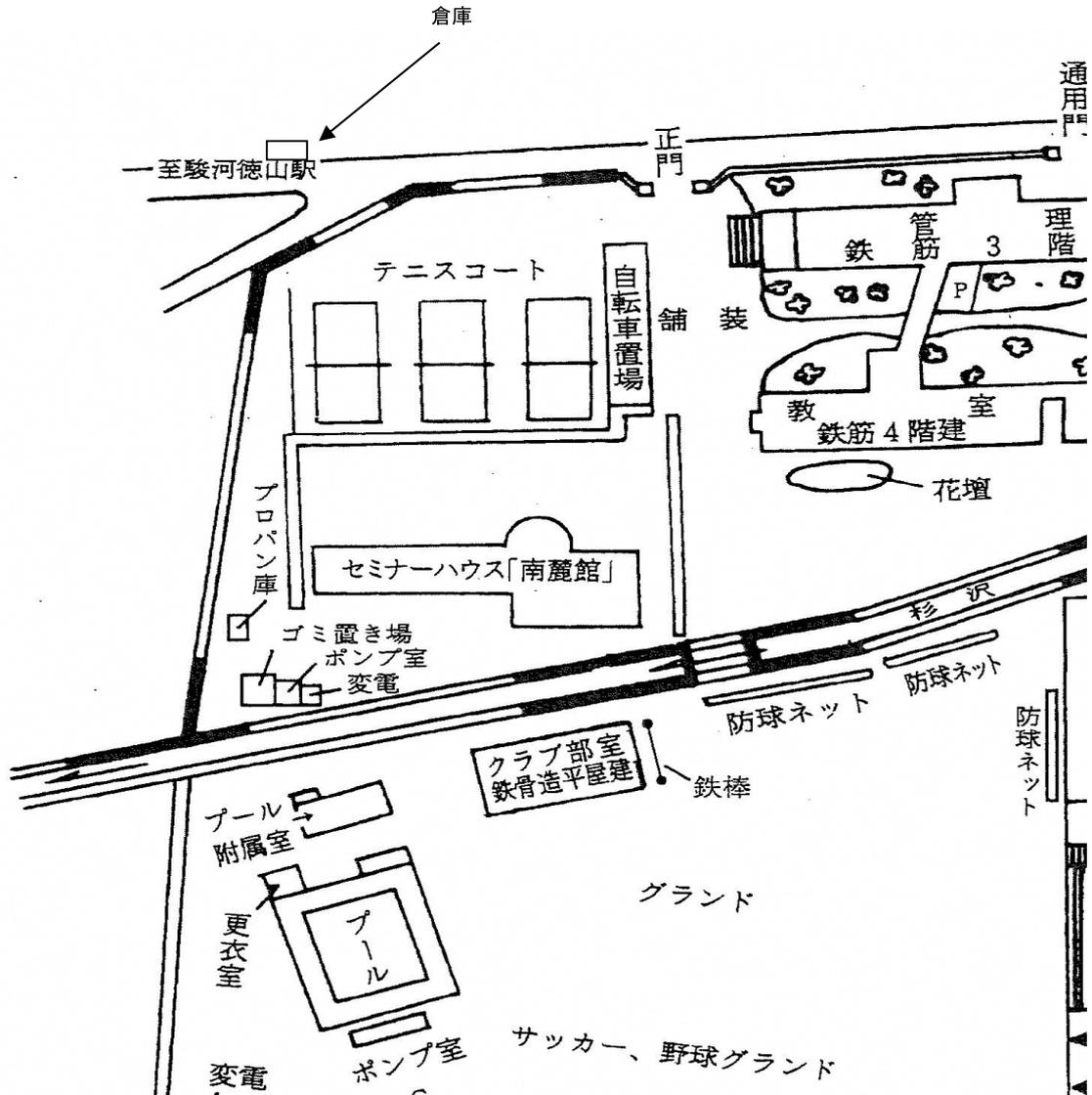
1 面積及び所有区分

(令和7年5月31日現在)

区 分	面 積 m ²	所 有 内 訳					摘 要
		県 有 m ²	国 有 m ²	市町村有 m ²	後援会有 m ²	民 有 m ²	
学 校 敷 地	36,574.12	36,574.12					
内 訳	校舎敷地	16,513.90	16,513.90				
	運動場敷地	18,185.22	18,185.22				
	そ の 他 の 敷 地	1,875.00	1,875.00				
実 習 地							
内 訳	田						
	畑						
	茶 園						
	果 樹 園						
演 習 林							
校 舎	建 <u>1,852.72</u> 延 5,624.24	<u>1,852.72</u> 5,624.24					
体 育 館	建 <u>1,249.00</u> 延 1,762.00	<u>1,249.00</u> 1,762.00					
武 道 場	建 <u>486.00</u> 延 486.00	<u>486.00</u> 486.00					
その他の建物	建 <u>1,343.63</u> 延 1,669.17	<u>1,343.63</u> 1,669.17					
寄 宿 舎	建 延						
生 活 館	建 延						
プ ー ル	1 個	1 個					25×16m 7コース
職 員 住 宅	11 戸	11 戸					

2 配置・規模等

(1) 校舎等の配置図



(2) 学校施設の規模等（法面・演習林等を除く）

区分	学校敷地面積	校舎延面積	運動場面積
当校	36,574.12m ²	5,624.24m ²	18,185.22m ²
県平均	45,574.48m ²	9,782.41m ²	22,506.84m ²

□□□□

在 籍 生 徒 調

(令和7年5月31日現在)

学年	学科別 区分		普 通 科			
			定 員	男 子	女 子	計
1 年	入 学 者		40	21	5	26
		増 加				
		減 少				
	現 在			21	5	26
2 年	入 学 者		40	16	10	26
		増 加				
		減 少		1	3	4
	2 年時当初			15	7	22
		増 加				
		減 少				
	現 在			15	7	22
3 年	入 学 者		80	17	15	32
		増 加				
		減 少				
	2 年時当初			17	15	32
		増 加				
		減 少				
	3 年時当初			17	15	32
		増 加				
減 少						
現 在			17	15	32	
合 計				53	27	80

□□□□

入学志願者及び入学者数調

区 分		3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
学 科 別		全日制普通科	全日制普通科	全日制普通科	全日制普通科	全日制普通科
生徒定員 (A)		80	80	80	40	40
募集者数 (B)		80	80	80	40	40
志願者数	男	26(0)	24(1)	19(1)	19(0)	22(0)
	女	18(0)	10(0)	15(0)	10(0)	6(0)
	計(C)	44(0)	34(1)	34(1)	29(0)	28(0)
受検者数	男	26(0)	24(1)	18(1)	19(0)	22(0)
	女	18(0)	10(0)	15(0)	10(0)	5(0)
	計(D)	44(0)	34(1)	33(1)	29(0)	27(0)
合格者数	男	25(0)	22(1)	17(1)	17(0)	21(0)
	女	18(0)	10(0)	15(0)	10(0)	5(0)
	計(E)	43(0)	32(1)	32(1)	27(0)	26(0)
志願倍率 (C)/(B)		0.55	0.41	0.41	0.73	0.70
受検倍率 (D)/(B)		0.55	0.41	0.40	0.73	0.68
入学者数	男	25	22	17	16	21
	女	18	10	15	10	5
	計(F)	43	32	32	26	26
充足率 (F)/(A)		0.54	0.40	0.40	0.65	0.65

□□□□

卒業生の動向調

1 進路状況

学 科 別		普通科			
年 度		4 年度	5 年度	6 年度	
卒 業 生 徒 数		38	37	26	
内 訳	(進学志願者)	(26)	(26)	(13)	
	進 学 者	大学・短大	15	11	8
		専修・各種学校等	11	15	5
		小 計	26	26	13
	就 職 者	11	10	12	
	自 営 者	0	0	0	
	進 学 準 備 者	0	0	0	
	そ の 他	0	1	1	
合 計		38	37	26	

2 求人状況 (全日制のみ)

区 分	4 年度	5 年度	6 年度
就職希望者数	11	10	12
求 人 数	50	62	61
求 人 倍 率	4.55	6.20	5.08

3 資格取得状況

(令和6年度)

学 科 別		普通科	
卒 業 生 徒 数		26	
資格の 取得状況	文章入力スピード認定試験	1 級	1
	〃	準 1 級	1
	〃	2 級	3
	〃	準 2 級	8
	漢字検定	準 2 級	3
	簿記検定	3 級	9
	数学検定	準 2 級	1
	実用英語検定	2 級	3
	〃	準 2 級	1
合 計		30	

□□□□

生徒の状況

1 生徒の出身地域及び通学方法

(1) 出身地 (令和7年5月31日現在) (単位:人)

市町名	川根本町	島田市	静岡市	浜松市	菊川市	藤枝市	その他	合計
生徒数	38	8	8	4	3	2	17	80
構成比%	47.5%	10.0%	10.0%	5.0%	3.8%	2.5%	21.2%	100%

(2) 通学方法 (令和7年5月31日現在) (単位:人)

区 分	電車併用者				自転車	徒歩	バス	その他	合計
	自転車	原付	徒歩	その他					
生徒数	0	1	0	0	7	47	7	18	80
構成比%	0.0%	1.3%	0.0%	0.0%	8.7%	58.8%	8.7%	22.5%	100%

(注) その他は家族等の送迎とする。

2 部(クラブ)の加入状況

(令和7年5月31日現在) (単位:人)

区 分		運動部	文化部	計
部(クラブ)数		3	3	6
男子	1年	8	7	15
	2年	7	6	13
	3年	9	4	13
	計(A)	24	17	41
	構成比	58.5%	41.5%	100%
女子	1年	1	3	4
	2年	2	3	5
	3年	1	7	8
	計(B)	4	13	17
	構成比	23.5%	76.5%	100%
(A+B)		28	30	58
合計	構成比	48.3%	51.7%	100%

授業料収納状況調

(令和6年度)

期 別	月 別	調 定 の 状 況										収 納 の 状 況			異動者等の状況	
		1 年		2 年		3 年		4 年		計		納期内収納額 円	納率 %	納期後 収納額 円		収 入 未 済 額 円
		人 員	調 定 額 円	人 員	調 定 額 円	人 員	調 定 額 円	人 員	調 定 額 円	人 員	調 定 額 円					
一 期	4	人	円	人	円	人	円	人	円	人	円	円	%	円	円	A. 期首収納権利発生額 = 9人×9,900円×3月=267,300円 B. 収納権利増減(▲)額 = 0円 C. 収納必要額A-B = 267,300円
	5															
	6															
	7	2	59,400	6	178,200	1	29,700			9	267,300	267,300	100	0	0	
	計	2	59,400	6	178,200	1	29,700			9	267,300	267,300	100	0	0	
二 期	8															A. 期首収納権利発生額 = 10人×9,900円×5月=495,000円 B. 収納権利増減(▲)額 = ▲49,500円 内訳> 1月:3年 就学支援金遡及認定▲1 1人×9,900円×5月 = ▲49,500円 C. 収納必要額A-B = 445,500円
	9															
	10	1	49,500	7	346,500	2	99,000			10	495,000	495,000	100	0	0	
	11															
	12															
	1					▲1	49,500			▲1	▲49,500	445,500	100	0	0	
計	1	49,500	7	346,500	1	49,500			9	445,500	445,500	100	0	0		
三 期	12															A. 期首収納権利発生額 = 9人×9,900円×4月=356,400円 B. 収納権利増減(▲)額 = 0円 C. 収納必要額A-B = 356,400円
	1	1	39,600	7	277,200	1	39,600			9	356,400	356,400	100	0	0	
	2															
	3															
	計	1	39,600	7	277,200	1	39,600			9	356,400	356,400	100	0	0	
合 計	4	148,500	20	801,900	3	118,800			27	1,069,200	1,069,200	100	0	0	D 収納必要額= 1,069,200円	

□□□□

授業料収納状況調

(令和7年度)
(令和7年5月31日現在)

期 別	月	調 定 の 状 況										収 納 の 状 況				異 動 者 等 の 状 況
		1 年		2 年		3 年		4 年		計		納期内 収納額	納期後 収納額	収 入 未 済 額		
		人員	調定額	人員	調定額	人員	調定額	人員	調定額	人員	調定額				率	
一 期	4	人	円	人	円	人	円	人	円	人	円	円	%	円	円	
	5															
	6															
	計															
二 期	7															
	8															
	9															
	10															
	11															
	計															
三 期	12															
	1															
	2															
	3															
	計															
合 計																

□□□□

県収入証紙により徴収した使用料及び手数料調

区 分	令和6年度	令和7年度 (令和7年5月31日現在)
	件 数	件 数
静岡県高等学校入学検定料	28	0
計	28	0

□□□□

保管現金有高調

(令和7年度)
(令和7年5月31日現在)

現金保管者	区 分	金 額 (円)
川根高等学校 校長	使用料及び賃借料継続の資金前渡	21,700

□□□□

預 金 調

(令和7年5月31日現在)

金融機関名	預金種類	口座番号	口座名義人	残高(円)	摘 要
静岡銀行家山支店	無利息型 普通預金	0053945	静岡県立川根高等学校 資金前渡者 校長 桑原 克之	0	給料振替用口座
静岡銀行家山支店	無利息型 普通預金	0120810	自振口静岡県立川根高等学校 資金前渡者 校長 桑原 克之	0	公共料金等自動 振替用口座
大井川農業協同組合 中川根支店	無利息型 普通預金	0048069	静岡県立川根高等学校 払込金資金 前渡者 校長 桑原 克之	0	所得税払出用口座
残 高 合 計				0	

□□□□

郵 券 等 受 払 調

(令和7年5月31日現在)

(単位 : 枚、円)

区 分	種 類	令和6年度						令和7年度						差引現在高	摘 要	
		繰 越		受 入		払 出		繰 越		受 入		払 出				
		枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額			
郵 券	84 円 券	3	252					3	252					3	252	
	270 円 券			288	77,760	288	77,760							0	0	
計		/	252	/	77,760	/	77,760	/	252	/	0	/	0	/	252	

□□□□

委託料等歳出予算執行状況節別集計表

節名	会計	款	項	目	執行済額 (円)		
					令和5年度	令和6年度	左のうち、5年度からの繰越額分
(12) 委託料	一般	教育費	教育委員会費	教育管理費		604,032	
	一般	教育費	高等学校費	高等学校管理費		3,464,286	
	一般	教育費	学校教育費	高校教育費		231,000	
計					3,193,432	4,299,318	0
(14) 工事 請負費							
計					3,960,000	0	0
(16) 公有財産 購入費							
計					0	0	0
(17) 備品 購入費	一般	教育費	高等学校費	高等学校管理費		130,570	
計					0	130,570	0
(18) 負担金、 補助金及 び交付金	一般	教育費	高等学校費	高等学校管理費		8,846,800	
計					10,530,000	8,846,800	0
(21) 補償、補填 及び賠償 金							
計					0	0	0

□□□□

委託料等歳出予算執行状況節別集計表

(令和7年5月31日現在)

節名	会計	款	項	目	執行済額 (円)	
						うち、6年度からの繰越額分
(12) 委託料	一般	教育費	教育委員会費	教育管理費	52,272	0
	一般	教育費	高等学校費	高等学校管理費	297,715	0
計					349,987	0
(14) 工事 請負費						
計					0	0
(16) 公有財産 購入費						
計					0	0
(17) 備品 購入費	一般	教育費	高等学校費	高等学校管理費	142,780	0
計					142,780	0
(18) 負担金、 補助金及 び交付金	一般	教育費	高等学校費	高等学校管理費	4,000	0
計					4,000	0
(21) 補償、補填 及び賠償 金						
計					0	0

委託料に関する調

(令和6年度)

繰 番	委 託 業務名	受託者	当 初 設計金額	契 約 金 額			契約 締結 方法	契 約 期 間	支 出 年月日	金 額	委託業務 の 内 容	摘 要
				当 初 額	変 更 増減額	計						
1	(事務関係) 自家用電 気工作物 保安管理 業務委託	静岡ビル 保全㈱	円 2,770,680	円 2,739,000	円 325,766	円 3,064,766	一般	6.4.1 ～ 7.3.31	6.5.31	228,250	川根高校外 4校自家用 電気工作物 保安管理業 務	川根高校 島田高校 島田工業高校 島田商業高校 ふじのくに 国際高校
									6.6.28	232,055		
									6.7.31	235,860		
									6.8.30	235,860		
									6.9.30	235,860		
									6.10.31	270,983		
									6.11.29	270,983		
									6.12.26	270,983		
									7.1.31	270,983		
									7.2.28	270,983		
									7.3.31	270,983		
									7.4.30	270,983		
									(小計)	3,064,766		
									2	一般廃棄 物収集運 搬処理業 務委託		
6.6.28	30,800											
6.7.31	30,800											
6.8.30	30,800											
6.9.30	15,400											
6.10.31	30,800											
6.11.29	30,800											
6.12.26	23,100											
7.1.31	23,100											
7.2.28	23,100											
7.3.31	30,800											
7.4.30	15,400											
(小計)	308,000											
3	警備業務 委託	セコム㈱	3,678,510	2,904,000	0	2,904,000	随契	元.10.1 ～ 6.9.30				(2,613,600)
									6.5.31	48,400		
									6.6.28	48,400		
									6.7.31	48,400		
									6.8.30	48,400		
									6.9.30	48,400		
									6.10.31	48,400		
									(小計)	290,400		
4	警備業務 委託	セコム㈱	3,484,800	3,136,320	0	3,136,320	随契	6.10.1 ～ 11.9.30	6.11.29	52,272	夜間・休日 学校警備業 務	6長期 随契2号 (不適)
									6.12.26	52,272		
									7.1.31	52,272		
									7.2.28	52,272		
									7.3.31	52,272		
									7.4.30	52,272		
									(小計)	313,632		

翻 号	委 託 業務名	受託者	当 初 設計金額	契 約 金 額			契約 締結 方法	契 約 期 間	支 出 年月日	金 額	委託業務 の 内 容	摘 要
				当 初 額	変 更 増減額	計						
5	学校紹介 動画作成 業務委託	サンライ ズ(株)	247,500	231,000	0	231,000	随契	7. 2.27 ～ 7. 3.31	7. 4.30	231,000	学校紹介動 画(約5分) MP4形式(フル HD)、USBメモ リ	随契1号 (少額)
6	産業廃棄 物収集・運 搬及び処 分委託	(株)ハイナ ン	91,520	91,520	0	91,520	随契	7. 3.12 ～ 7. 3.31	7. 4. 8	91,520	産業廃棄物 収集・運搬 及び処分	随契1号 (少額)
	事務関係 計	6								4,299,318		
	合計	6								4,299,318		
参 考 1	消防用設 備等保守 点検業務 委託	サンコー 防災(株)		5,940,000	0	5,940,000		6. 4. 1 ～ 7. 3.31			島田高校外 4校消防用 設備等保守 点検業務	島田高校
参 考 2	浄化槽保 守点検業 務委託	ニッケン 消毒(株)		1,463,000	0	1,463,000		6. 4. 1 ～ 7. 3.31			島田商業高 校外6校浄 化槽保守点 検業務	島田商業高校
参 考 3	建築基準 法第12条 定期点検 業務委託	(有)コーセ イ産業		1,643,290	0	1,643,290		6. 7.26 ～ 6.10.31			島田川根地 区県立学校 建築基準法 第12条定期 点検業務	ふじのくに 国際高校
	合計	3件										

委託料に関する調

(令和7年度)
(令和7年5月31日)

欄番	委託業務名	受託者	当初設計金額	契約金額			契約締結方法	契約期間	支出年月日	金額	委託業務の内容	摘要
				当初額	変更増減額	計						
1	(事務関係) 自家用電気工作物 保安管理 業務委託	静岡ビル 保全㈱	円 3,391,080	円 3,388,000	円 0	円 3,388,000	一般	7.4.1 ～ 8.3.31	7.5.30 (小計)	円 282,315 282,315	川根高校外 4校自家用 電気工作物 保安管理業 務	川根高校 島田高校 島田工業高校 島田商業高校 ふじのくに 国際高校
2	一般廃棄物 収集運搬 処理業務委託	(有)フジク リーン	308,000	308,000	0	308,000	随契	7.4.16 ～ 8.3.31	7.5.30 (小計)	15,400 15,400	一般廃棄物 収集運搬 処理業務	随契1号 (少額)
3	警備業務 委託	セコム㈱	3,484,800	3,136,320	0	3,136,320	随契	6.10.1 ～ 11.9.30	7.5.30 (小計)	(313,632) 52,272 52,272	夜間・休日 学校警備業 務	6長期 随契2号 (不適)
	事務関係 計	3件								349,987		
	合計	3件								349,987		
参考 1	消防用設 備等保守 点検業務 委託	サンコー 防災㈱	/	7,370,000	0	7,370,000	/	7.4.1 ～ 8.3.31	/	/	島田高校外 4校消防用 設備等保守 点検業務	島田高校
参考 2	浄化槽保 守点検業 務委託	ニッケン 消毒㈱	/	1,540,000	0	1,540,000	/	7.4.1 ～ 8.3.31	/	/	島田商業高 校外6校浄 化槽保守点 検業務	島田商業高校
	合計	2件										

□□□□

負担金支出調

(令和6年度)

整理番号	負担金名	交付先	負担根拠	事業内容	負担金額	支出年月日
1	全国高等学校長協会第76回総会・研究協議会参加費	全国高等学校長協会	全国高等学校長協会第76回総会・研究協議会開催案内による	高等学校教育の相互連携を深め教育推進を図る	円 4,000	6.5.13
2	東海四県高等学校長連絡協議会総会・研究協議会参加費	東海四県高等学校長連絡協議会	東海四県高等学校長連絡協議会総会・研究協議会開催案内による	高等学校教育の相互連携を深め教育推進を図る	2,000	6.7.16
3	東海四県高等学校長生徒指導連絡協議会参加費	東海四県高等学校長生徒指導連絡協議会	東海四県高等学校長生徒指導連絡協議会開催案内による	高等学校教育の相互連携を深め教育推進を図る	2,000	6.7.19
4	甲種防火管理新規講習受講料	一般財団法人日本防火・防災協会	受講案内による	防火管理講習会	8,000	6.7.16
5	高等学校就学支援金	全日制高等学校授業料（第1期分75名分）	高等学校等就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	2,217,600	振替日 6.7.31
6	全国普通科高等学校校長会第74回総会・研究協議会参加費	全国普通科高等学校校長会	全国普通科高等学校校長会第74回総会・研究協議会開催要項による	普通科高等学校教育の相互連携を深め教育推進を図る	6,000	6.8.30
7	東海地区高等学校教頭・副校長会連絡協議会総会及び研究協議会参加費	東海地区高等学校教頭・副校長会連絡協議会	東海地区高等学校教頭・副校長会連絡協議会総会及び研究協議会開催案内による	高等学校教育の相互連携を深め教育推進を図る	2,000	6.9.30
8	川根地区連携型中高一貫教育連絡協議会負担金	中高一貫教育連絡協議会	川根地区連携型中高一貫教育連絡協議会会則による	川根地区における中高一貫教育実施校の相互連携を深め教育推進を図る	91,000	6.10.10
9	高等学校就学支援金	全日制高等学校授業料（第2期分73名分）	高等学校等就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	3,613,500	振替日 6.10.31

□□□□

負担金支出調

(令和6年度)

整理番号	負担金名	交付先	負担根拠	事業内容	負担金額	支出年月日
10	高等学校就学支援金	全日制高等学校	高等学校等就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	2,851,200	振替日 7.1.31
11	高等学校就学支援金	全日制高等学校	就学支援金遡及認定者に係る事務処理について	就学支援金が遡及認定された生徒の保護者等への振込	49,500	7.1.31
計		11 件			8,846,800	

□□□□

負担金支出調

(令和7年度)

(令和7年5月31日現在)

整理番号	負担金名	交付先	負担根拠	事業内容	負担金額	支出年月日
1	全国高等学校長協会第77回総会・研究協議会参加費	全国高等学校長協会	全国高等学校長協会第77回総会・研究協議会開催案内による	高等学校教育の相互連携を深め教育推進を図る	円 4,000	7.5.1
計		1 件			4,000	

□□□□

建 築 工

整理 番号	予算科目	工 事 名	工事箇所	当 初 設計金額	契 約 金	
					当 初 額	変更増減額
参考 1	教育管理費	令和6年度 [第36-Z2416-01号] 川根高等学校体育 館照明改修工事	榛原郡川根本町 徳山地内	12,001,000円	11,440,000円	0円
		合計	1 件	12,001,000円	11,440,000円	0円

「令和7年度中該当なし」

事 調

(令和6年度)

額	契約 締結 方法	受 注 者	着 手 完 成 (予定) 年 月 日	支 出 済 額	工 事 概 要	公有財 産台帳	摘 要
計							
11,440,000円	一般	高橋電気工業(株)	着手 6. 6. 13 完成 6. 10. 4	11,440,000円	川根高校 体育館照明改修	-	本庁経理 交通基盤部建 設管理局設備 課
11,440,000円				11,440,000円			

□□□□

公 有 財 産 調

(令和6年度)

区 分	令和6年3月31日 現 在		増		減		令和7年3月31日 現 在		摘要
	数量又 は面積	台 帳 価 格	数量又 は面積	台 帳 価 格	数量又 は面積	台 帳 価 格	数量又 は面積	台 帳 価 格	
行政財産	/	千円 618,986	/	千円	/	千円 7,696	/	千円 611,290	
土 地	36,574.12m ²	496,359					36,574.12m ²	496,359	
立木竹	43本	2,006					43本	2,006	
建 物	$\frac{4,931.35\text{m}^2}{9,541.41\text{m}^2}$	114,478				7,202	$\frac{4,931.35\text{m}^2}{9,541.41\text{m}^2}$	107,276	
工作物	100個	6,143				494	100個	5,649	
普通財産	/	19,179	/		/		/	19,179	
土 地	1,406.94m ²	19,179					1,406.94m ²	19,179	
建 物	$\frac{379.19\text{m}^2}{611.00\text{m}^2}$	0					$\frac{379.19\text{m}^2}{611.00\text{m}^2}$	0	
工作物	9個	0					9個	0	
公有財産に準ずるもの	/	187	/		/		/	187	
電話加入権	5件	187					5件	187	

「令和7年度中異動なし」

借地借家等調

(令和7年5月31日現在)

整理 番号	区 分	種 別	所在地	地 目		数量又 は面積	借 料		契 約 期 間	所有者又は 契約者氏名	用 途
				台 帳	現 況		単 価	年 額			
1	土地	水路敷地	榛原郡川根本町 徳山1644-1、1651-1			m ² 24.05	円	免除	R5.4.1～ R15.3.31	川根本町長	橋梁設置 (占用許可)
2	土地	水路敷地	榛原郡川根本町 徳山1644-1、1651-1			m ² 27.57		免除	R5.4.1～ R15.3.31	川根本町長	橋梁設置 (占用許可)
3	土地	水路敷地	榛原郡川根本町 徳山1644-1			m 22.00		免除	R5.4.1～ R8.3.31	川根本町長	電線 (占用許可)
4	工作物	雑工作物	榛原郡川根本町 徳山1634			1個		無償	R5.4.1～ R8.3.31	川根高等学校 後援会長	倉庫
5	工作物	雑工作物	榛原郡川根本町 徳山1634			1個		無償	R5.4.1～ R8.3.31	川根高等学校 後援会長	手足洗場
6	工作物	雑工作物	榛原郡川根本町 徳山1634			1個		無償	R5.4.1～ R8.3.31	川根高等学校 野球部後援会長	投球練習場
7	工作物	雑工作物	榛原郡川根本町 徳山1634			1個		無償	R5.4.1～ R8.3.31	川根高等学校 野球部後援会長	観覧席
8	工作物	雑工作物	榛原郡川根本町 徳山1634			1個		無償	R5.4.1～ R8.3.31	川根高等学校 野球部後援会長	一、三星ダ ッグアウト
9	工作物	雑工作物	榛原郡川根本町 徳山1634			1個		無償	R5.4.1～ R8.3.31	川根高等学校 野球部後援会長	バックネッ ト裏観覧席
10	工作物	雑工作物	榛原郡川根本町 徳山1634			1個		無償	R5.4.1～ R8.3.31	川根高等学校 野球部後援会長	バッティン グ練習場
11	工作物	雑工作物	榛原郡川根本町 徳山1634			1個		無償	R5.4.1～ R8.3.31	川根高等学校 野球部後援会長	掲示板
12	工作物	雑工作物	榛原郡川根本町 徳山1634			1個		無償	R5.4.1～ R8.3.31	川根高等学校 野球部後援会長	応援看板
13	工作物	冷暖房 装置	榛原郡川根本町 徳山1644-1			1個		711, 130	R3.7.1～ R16.6.30	三井住友ファイナン ス&リース株式会社	普通教室 空調
14	工作物	冷暖房 装置	榛原郡川根本町 徳山1644-1			1個		4, 330, 393	R6.7.1～ R19.6.30	NTT・TCリース 株式会社 静岡支店	特別教室 空調
計						m ² 51.62 m 22.00 11個		5, 041, 523			

□□□□

事務機器等の債務負担行為又は長期継続契約に係る調

(令和6年度)

区分	事業名又は契約名	内 容	契約額	(契約額の年度別内訳)					
				元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
長期継続契約	静岡県立川根高等学校警備業務委託	警備業務 (契約日) 令和元年9月27日	2,904,000	290,400	580,800	580,800	580,800	580,800	290,400

様式第26号-2

事務機器等の債務負担行為又は長期継続契約に係る調

(令和7年度)

(令和7年5月31日現在)

区分	事業名又は契約名	内 容	契約額	(契約額の年度別内訳)					
				6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度
長期継続契約	静岡県立川根高等学校警備業務委託	警備業務 (契約日) 令和6年9月24日	3,136,320	313,632	627,264	627,264	627,264	627,264	313,632

行政財産貸付・使用許可調

(令和7年5月31日現在)

整理 番号	区分	種別	所在地	地 目		数量又 は面積	貸付料又は 使 用 料		貸付又は 使用許可 期 間	貸付又は使用 許可を受けた 者の氏名	貸付・使用 許 可 目 的
				台帳	現況		単価	年額			
1	土地	学校敷地	榛原郡 川根本町徳山 1644-1	学校用地	学校敷地	電柱3本 支線4条	円 1,500	円 10,500	4.4.1 ～ 9.3.31	中部電力パワー グリッド(株) 島田営業所 配電グループ長	電力供給
2	土地	学校敷地	榛原郡 川根本町徳山 1644-1	学校用地	学校敷地	0.40㎡		免除	4.4.1 ～ 9.3.31	川根本町長	避難誘導標識
3	土地	学校敷地	榛原郡 川根本町徳山 1644-1	学校用地	学校敷地	0.39㎡		免除	7.4.1 ～ 12.3.31	川根本町徳山 区長	街路燈
4	土地	学校敷地	榛原郡 川根本町徳山 1634	学校用地	学校敷地	0.24㎡		免除	6.4.1 ～ 9.3.31	川根本町長	カーブミラー
5	土地	学校敷地	榛原郡 川根本町徳山 1634	学校用地	学校敷地	19.87㎡		免除	7.4.1 ～ 12.3.31	川根高等学校 後援会長	倉庫
6	土地	学校敷地	榛原郡 川根本町徳山 1634	学校用地	学校敷地	4.90㎡		免除	7.4.1 ～ 12.3.31	川根高等学校 後援会長	手足洗場
7	土地	学校敷地	榛原郡 川根本町徳山 1644-1	学校用地	学校敷地	125.80 ㎡		免除	7.4.1 ～ 12.3.31	川根高等学校 後援会長	茶畑
8	土地	学校敷地	榛原郡 川根本町徳山 1634	学校用地	学校敷地	81.32㎡		免除	7.4.1 ～ 12.3.31	川根高等学校 野球部後援会長	投球練習場
9	土地	学校敷地	榛原郡 川根本町徳山 1634	学校用地	学校敷地	25.57㎡		免除	7.4.1 ～ 12.3.31	川根高等学校 野球部後援会長	観覧席
10	土地	学校敷地	榛原郡 川根本町徳山 1634	学校用地	学校敷地	50.42㎡		免除	7.4.1 ～ 12.3.31	川根高等学校 野球部後援会長	一塁側・三塁側 ダックアウト
11	土地	学校敷地	榛原郡 川根本町徳山 1634	学校用地	学校敷地	48.35㎡		免除	7.4.1 ～ 12.3.31	川根高等学校 野球部後援会長	バックネット裏 観覧席
12	土地	学校敷地	榛原郡 川根本町徳山 1634	学校用地	学校敷地	105.30 ㎡		免除	7.4.1 ～ 12.3.31	川根高等学校 野球部後援会長	バッティング 練習場
13	土地	学校敷地	榛原郡 川根本町徳山 1634	学校用地	学校敷地	0.43㎡		免除	7.4.1 ～ 12.3.31	川根高等学校 野球部後援会長	掲示板
14	土地	学校敷地	榛原郡 川根本町徳山 1634	学校用地	学校敷地	0.55㎡		免除	7.4.1 ～ 12.3.31	川根高等学校 野球部後援会長	応援看板
15	土地	学校敷地	榛原郡 川根本町徳山 1634	学校用地	学校敷地	39.66㎡		免除	7.4.1 ～ 8.3.31	川根本町長	記念碑

整理 番号	区分	種別	所在地	地 目		数量又 は面積	貸付料又は 使 用 料		貸付又は 使用許可 期 間	貸付又は使用 許可を受けた 者の氏名	貸付・使用 許 可 目 的
				台帳	現況		単価	年額			
16	土地	学校敷地	榛原郡 川根本町徳山 1634	学校用地	学校敷地	0.32㎡		免除	6.4.1 ～ 9.3.31	川根本町長	消火栓ホース 格納箱
17	土地	学校敷地	榛原郡 川根本町徳山 1634	学校用地	学校敷地	0.09㎡ 地下埋設 5.00m		免除	6.4.1 ～ 9.3.31	川根本町長	消火栓設備
18	土地	学校敷地	榛原郡 川根本町徳山 1644-1	学校用地	学校敷地	0.32㎡		免除	6.4.1 ～ 9.3.31	川根本町長	消火栓ホース 格納箱
19	土地	学校敷地	榛原郡 川根本町徳山 1644-1	学校用地	学校敷地	0.25㎡		免除	5.4.1 ～ 8.3.31	静岡県島田土木 事務所長	道路照明灯
20	土地	学校敷地	榛原郡 川根本町徳山 1644-1	学校用地	学校敷地	7.00㎡		免除	7.4.1 ～ 10.3.31	川根高等学校 後援会長	団体職員駐車場
	建物	事務所建		鉄筋コンク リート造 3階建	3.30㎡		団体職員執務 場所				
21	建物	事務所建	榛原郡 川根本町徳山 1644-1	鉄筋コンク リート造 3階建		1.00㎡		免除	6.4.1 ～ 9.3.31	川根高等学校 後援会長	ピンク電話機
22	建物	事務所建	榛原郡 川根本町徳山 1634	鉄筋コンク リート造 2階建		0.95㎡		免除	6.4.1 ～ 9.3.31	川根本町長	非常用電源設備
23	建物	事務所建	榛原郡 川根本町徳山 1634	重量鉄骨造 平屋建		0.90㎡		免除	6.4.1 ～ 9.3.31	川根本町長	非常用電源設備
24	建物	事務所建	榛原郡 川根本町徳山 1634	鉄筋コンク リート造 2階建		13.47㎡		免除	6.4.1 ～ 9.3.31	川根本町長	防災用品保管 場所
25	土地	学校敷地	榛原郡 川根本町徳山 1644-1	学校用地	学校敷地	0.12㎡		免除	5.4.1 ～ 8.3.31	川根本町長	災害時非常用 通信設備
	建物	事務所建		鉄筋コンク リート造 2階建	0.52㎡						
26	土地	学校敷地	榛原郡 川根本町徳山 1644-1	学校用地	学校敷地	2.00㎡		85,000	7.4.1 ～ 10.3.31	ダイドードリン コ(株) 東海営業部長	飲料自動販売機 回収ボックス
27	建物	事務所建	榛原郡 川根本町徳山 1644-1	鉄筋コンク リート造 2階建		2.00㎡		259,600	5.4.1 ～ 8.3.31	コカ・コーラボトラ ズジャパン(株) ベンディング中部日本 地区統括部ベンディ ング浜松支店長	飲料自動販売機 回収ボックス
合計								355,100			

□□□□

普通財産・借受財産等貸付調

(令和7年5月31日現在)

整理 番号	区分	種別	所在地	地 目		数量又 は面積	貸付料又は 使 用 料		貸付又は 使用許可 期 間	貸付又は使用 許可を受けた 者 の 氏 名	貸付・使用 許 可 目 的
				台帳	現況		単価	年額			
1	土地	宅地	榛原郡川根本町 徳山485-1	宅地	住宅 敷地	電柱3本 支線1条	円 1,500	円 6,000	4.4.1 ～ 9.3.31	中部電力パワー グリッド㈱ 島田営業所 配電グループ長	電力供給
合	計							6,000			

□□□□

職員公舎管理状況調

(令和7年5月31日現在)

整理 番号	所在地	建築 年月	構造	管理戸 (室) 数(A)	入居戸 (室) 数(B)	B の内他事務所 職員入居 戸(室)数	空屋戸 (室) 数(A-B)	摘 要
1	榛原郡川根本町 徳山1683-3	平成 10.3	木造瓦葺 地上1階建	1戸	1戸	0戸	0戸	校長住宅
2	榛原郡川根本町 徳山485-1	昭和 44.2	鉄筋コンクリート造 2階建 1棟4戸	4戸	0戸	0戸	4戸	教職員住宅 空家 H25.4.1～ R2.5.12～ R2.10.1～ R5.2.24～
3	榛原郡川根本町 徳山485-1	昭和 49.4	鉄筋コンクリート造 2階建 1棟6戸	6戸	1戸	0戸	5戸	教職員住宅 空家 H24.4.1～ H25.4.1～ H31.4.1～ H31.4.1～ R2.4.12～
	計			11戸	2戸	0戸	9戸	

□□□□

主 要 備 品 調

(令和7年5月31日現在)

整理 番号	区 分		品 名・規 格	利 用 状 況	購入年月	購入金額
	大・中	小				
1	2-1	パーソナルコンピュータ (一式)	県立学校ICT環境整備機器一式	授業部活動用 毎日(年間240日)使用	R元. 9	5,702,400 円
2	2-1	パーソナルコンピュータ (一式)	パーソナルコンピュータ (一式) サーバML110、PCPro8300	授業部活動用 毎日(年間240日)使用	H25. 2	5,071,500
3	2-1	パーソナルコンピュータ (一式)	平成28年度川根高等学校 ICT機 アップルMacBookAir	授業部活動用 毎日(年間240日)使用	H28. 12	3,831,840
4	8-2	その他の船舶	その他の船舶 救助艇 4人乗り	部活動用 毎日(年間180日)使用	H14. 3	2,260,000
5	1-4	戸 棚	戸棚(木製受注) ダルトン一式	調理教育用 随時使用	H16. 3	1,365,000
6	2-2	放送装置	音声調節器	校内放送用 毎日(年間240日)使用	H6. 3	1,250,000
7	8-2	カヌー	カヤックフォア K-4	部活動用 毎日(年間180日)使用	H19. 1	1,208,500
8	1-5	印刷機	印刷機 GR371	印刷用 毎日(年間240日)使用	H11. 3	987,000
9	2-2	放送装置	体育館放送設備一式 ジョナル仕様	体育館用 随時使用	H10. 2	859,320
10	10-7	管 楽 器	バスクラリネット	部活動用 毎日(年間180日)使用	H28. 3	624,240
11	8-2	カヌー	カヌー C-4	部活動用 毎日(年間180日)使用	H14. 3	621,075
12	10-7	鍵盤楽器	ピアノ アップライト型	音楽教育用 随時使用	H10. 1	607,950
13	8-2	カヌー	カヤック ペア	部活動用 毎日(年間180日)使用	H30. 6	595,080
14	10-2	その他の語学用器具	カセットプリンター	外国語教育用 随時使用	H7. 2	547,000
15	10-7	打 楽 器	長胴太鼓 1尺6寸 栓胴	部活動用 毎日(年間180日)使用	H8. 11	530,000
16	10-12	トレーニング用機器	トレーニング用器具 DAN SPRINT	部活動用 毎日(年間180日)使用	R元. 6	496,800
17	10-7	打 楽 器	大締太鼓 2尺8寸	部活動用 毎日(年間180日)使用	H10. 2	488,000
18	2-1	その他の情報処理機器	平成28年度校内LAN サーバー等	教育活動用 毎日使用(年間240日)使用	H29. 3	475,956
19	6-4	空調冷凍機器	製氷機	授業部活動用 毎日(年間240日)使用	H23. 6	472,500
20	10-06	教育調理器具	調理台 ニッターLKD	調理教育用 随時使用	H7. 11	422,300

□□□□

職 員 調

(令和7年5月31日現在)

整理 番号	職 名	氏 名	事務分担	住 所	勤務年数	摘 要
					年月	
1	校 長	桑原 克之		□□□	□.□	□□□□
2	副校長	大石 裕治		□□□	□.□	□□□□
3	教 頭	山田 文	家庭	□□□	□.□	□□□□
4	事務長	福井 智行		□□□	□.□	□□□□
5	教 諭	大橋 辰也	数学	□□□	□.□	□□□□
6	教 諭	鈴木 かおり	商業	□□□	□.□	□□□□
7	教 諭	堤 孝俊	理科	□□□	□.□	□□□□
8	教 諭	佐々木 泉	国語	□□□	□.□	□□□□
9	教 諭	豊島 宏	商業	□□□	□.□	□□□□
10	教 諭	小林 祐輝	理科	□□□	□.□	□□□□
11	教 諭	芦澤 奈緒	英語	□□□	□.□	□□□□
12	教 諭	廣岡 佑美子	国語	□□□	□.□	□□□□
13	教 諭	杉山 和志	地歴	□□□	□.□	□□□□
14	教 諭	浅井 優花	英語	□□□	□.□	□□□□
15	教 諭	生熊 克健	数学	□□□	□.□	□□□□
16	教 諭	宮田 和樹	保体	□□□	□.□	□□□□
17	教 諭	中山 敬斗	英語	□□□	□.□	□□□□
18	実習助手	小林 珠恵	理科	□□□	□.□	□□□□
19	実習助手	伊藤 公大	理科	□□□	□.□	□□□□
20	主査	中野 卓哉	会計	□□□	□.□	□□□□
21	主事	山口 颯太	庶務	□□□	□.□	□□□□
平均年数					□年□月	

臨時職員・非常勤職員

整理 番号	職 名	氏 名	事務分担	住 所	勤務年数	摘 要
1	教諭(臨)	増田 倫	理科	□□□	□.□	□□□□

2	教諭(臨)	松下 広大	国語	□□□	□.□	□□□□
3	教諭(臨)	植松 海理	保体	□□□	□.□	□□□□
4	養護教諭(臨)	増田 晴香	養護	□□□	□.□	□□□□
5	外国語指導講師	Mackenzie Tulak	英語	□□□	□.□	□□□□
6	会計年度任用職員	中田 昇	地歴	□□□	□.□	□□□□
7	会計年度任用職員	八木 俊樹	地歴	□□□	□.□	□□□□
8	会計年度任用職員	杉本 麻奈美	英語	□□□	□.□	□□□□
9	会計年度任用職員	江間 秀明	音楽	□□□	□.□	□□□□
10	会計年度任用職員	山本 佳世	美術	□□□	□.□	□□□□
11	会計年度任用職員	原田 勉	書道	□□□	□.□	□□□□
12	会計年度任用職員	梶川 泰知	用務	□□□	□.□	□□□□
13	会計年度任用職員	植田 強	用務	□□□	□.□	□□□□
14	会計年度任用職員	西田 稔	事務補助	□□□	□.□	□□□□
15	会計年度任用職員	荒浪 由巳	カウンセラー	□□□	□.□	□□□□
16	会計年度任用職員	藪田 真弓	カウンセラー	□□□	□.□	□□□□
17	学校医	鈴木 文彦		□□□	□.□	□□□□
18	学校歯科医	渡邊 克也		□□□	□.□	□□□□
19	学校薬剤師	松岡 政臣		□□□	□.□	□□□□

□□□□

職員の年齢調

(令和7年5月31日現在)

年 齢	人 員	摘 要
20歳未満	0人	
20歳以上30歳未満	6	
30歳以上40歳未満	4	
40歳以上50歳未満	5	
50歳以上56歳未満	5	
56歳以上61歳未満	0	
61歳以上	1	再任用職員1人
計	21	平均年齢40.0歳

□□□□

健康管理

1 令和6年度受診状況

区 分	内 容
受 診 状 況	受診者数 24 人 職員数 24 人
受 診 率	100.0 %
県平均受診率	100.0 %

(1) 未受診の理由

2 令和7年度在籍者の健康管理区分結果

健 康 管 理 区 分		人 数
A	休養のため必要な期間、勤務を休止させる。	0人
B 1	勤務時間を短縮し、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張をさける。また、必要に応じ勤務場所、勤務内容の変更を行う。	要 治 療 0人
B 2		要経過観察 0人
C 1	勤務をほぼ平常に行っておりが症状によっては、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張等勤務に制限を加える必要がある。	要 治 療 0人
C 2		要経過観察 0人
D 1	平常の勤務でよい。	要 治 療 1人 (1)
D 2		要経過観察 12人 (12)
D 3		医療不要 7人 (7)
区 分 者 計		20人 (20)
未区分者数		1人
合 計		21人

(1) 管理区分A～C 2 該当者
に対する措置状況

(2) 未区分の理由

ア 産休・育休	人
イ 新規採用	1人
ウ 自己都合による未受診	人
エ その他	